

実践報告

札幌市立羊丘中学校

(1) 研究内容

研究課題：「性と生についての理解と行動の育成」

- 発達段階に応じて、「性」に対する確かな知識の獲得を進め、男女の平等や協力、多様な性的自認など多様な生き方を理解し、適切な行動をとることができる生徒の育成を目指す。

(2) 実践の内容

【実践①】「性と生」についての講演会

○ ねらい

「性」について、正しく適切な知識を身に付けることは本校の課題であり、専門的な知識をもつ方の話を聞き、性に関する理解を深め、適切な行動をとれるようになるきっかけとする。

○ 学習内容

7月に全校生徒を対象に、「性と生」についての講演会と題して大学講師による講義を開催した。中学生の段階として性差による身体や性に対する考え方の違いを例に、職業や異性とのかかわり方を例示した。また、LGBT など性的自認の多様さなどについて説明を受け、「誰もが自分の心と体」を自分のものとして大切にして生きていけることが大切であることを話し、各自が講演を通して考えたことをワークシートに記した。



【実践②】道徳科「避難してきた家族を 何を大切にして配置すればよいのか」

○ ねらい

事情の異なる6件の家族をそれぞれの優先すべき事情を尊重し、避難所にどのように配置するのかを個人とグループで考える活動を通して、思いやり・感謝、相互理解・寛容、公正・公平などについて気づき、性や平等などの大切さへの考えを深めていく。

○ 学習内容

市危機管理対策室の避難所運営ゲーム（HUG）を参考に教材を自作した。それぞれの事情の違う6件の家族のうち、どの家族を個室にするべきかを考えた。高齢、ペット、アレルギー、乳幼児などの事情を抱える家族が個室を要望しているという想定で、生徒は自分が避難所の係としてどのように判断するかを考えた。個人の意見を持ち寄り、グループとしての最適解を考え、学級全体で交流した。自分とは異なる意見に耳を傾ける中で、平等の大切さやプライバシーへの配慮など、考えの違いを交わし、学習を通して気付いたキーワードをワークシートに記した。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 「性と生」についての講演会では、性に関わる知識を正しく得ることの大切さに気付く生徒が多かった。そのほかに、SNSなどの使い方を誤ると、軽い気持ちで送った写真個人情報がデジタルタトゥーとしてずっと残ってしまうこと、言葉の暴力が集団のものになってしまうことなど、携帯電話の使い方に関心しなければならぬことに気付く生徒も多かった。
- ・ 性について知らないことや悩むことは誰にでもあることで、一人で悩まずに身近な人に相談することが大切であること、また身近な人が困っている時に手を差し伸べることが大切であることに気付く生徒も多かった。
- ・ 生まれた時の性別である「体の性」と、自分が自覚している「心の性」が、必ずしも一致するものではないこと、そのような人が身近にもいることを講演から知り、驚く生徒も多々いた。様々な価値観をもつ人への配慮が大切であることを理解し、どのように接していくべきかを考える機会を広げていく必要があることが分かった。
- ・ 道徳科の学習では、生きるうえで大切なこととして、平等や配慮の大切さに気付く生徒が多かった。そのほかに、よりよく生きるために大切なこととして、集団で生活する中での状況をみて、適切に判断することが大切であることに気付く生徒も多かった。

② 課題

- ・ 性については、学年の発達段階に応じて、教科の学習や社会での出来事などをふまえて、性被害や性暴力などが身近なところで起きている現状も伝えていく必要がある。その際にどこまでどのように伝えていくかを精選し、外部の機関や人材を活用して、生徒にとって効果的に問題意識をもたせていくことが必要になることが課題となった。
- ・ 道徳科では、「性」をどのように授業で扱うかの難しさについて、改めて考える必要が課題となった。異性との関わりや家族との関わりなど、心情的な理解に加えた学習を工夫していく必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 「性」についての正しい知識を身に付けることは、よりよい人生を送るうえで大切なライフスキルの一つとなる。小学校までに身に付けたこと、中学校3年間の発達段階、そして高等学校での生活という小中高の一貫した教育の柱の一つとして教育課程に位置付けていくことが大切だと考える。
- ・ よりよく生きるために何が必要かを考えることは、持続可能な社会の実現の視点からも大切な学習活動になる。性についての学習をきっかけに、人間一人一人を尊重していく社会の形成に視野を広げた学習への発展を考えていくことが大切だと考える。